



白河内古墳石室の壁画



第 6 号

平成 13 年 8 月 10 日 発行
那珂町歴史民俗資料館
(那珂総合公園内)

戸崎428-2 ☎ 297-0 0 8 0
FAX 297-0 0 7 5

県指定 木造毘沙門天像



県指定 木造薬師如来座像



那珂町の文化財(4)

①木造薬師如来座像 ②木造毘沙門天像 ③木造吉祥天像 ④木造善尼師童子像(飯田・一乗院・いづれも県指定)

県道下宿・常陸鴻巣停車場線とバードラインとの交差点からやや北寄りに真言宗の一乗院がある。寺号は法満山一乗院千手寺である。

当寺は毘沙門堂が古くその開基は恵海上人、当寺は、初め石沢村(現・大宮町)に宥祖によって開かれた。下総国(千葉県)の人で最初は鎌倉の極楽寺で修行し、のち小松寺の宥尊の弟子となり、宥尊から法を受け一乗院と西光院(現・大洗町)を開いた人である。

佐竹氏の一族である小田野義正の子が当寺の住職(七世海義)になつてから寺を山吹(現・常陸太田市)に移し佐竹本宗の祈禱寺となり、佐竹氏との結びつきを強めていった。一五九〇(天正一八)年、佐竹氏が江戸氏を滅ぼして水戸へ進出すると共に、山吹から薬王院(天台宗)跡に移った。

一七〇〇(元禄一三)年、光圀の命により、かつて常陸国の真言宗教団の一つであった久福寺の廃寺跡である現在の地に移された。

当寺には県指定(彫刻)の文化財が四つある。

本尊の木造薬師如来座像は、室

町時代中期の作といわれ松材の一本造り。像高四〇センチメートル。左手に薬壺をもち、右手は五指を伸ばし手のひらを外に向けて肩の高さまで上げている。これを「施無畏印」とよんでいる。仏が衆生の種々畏怖の心を取り除いて救済することを表している。

木造毘沙門天像は、鎌倉中期の運慶の作といわれる。像高一六〇センチメートル。松材の寄木造り。毘沙門天は多聞天ともいわれ北方を守り財宝を守る神で四天王の一つであり、七福神の一つでもある。甲冑をつけた激しい形相をなし、右手に宝棒・左手に宝塔をもっている。

木造吉祥天像は、鎌倉中期の作といわれる。クス材の一本造り。像高八〇センチメートル。毘沙門天の脇侍。仏教では毘沙門天の妃とされる。容貌は端麗で右手にはあらゆる願をかなえるとされる不思議な如意珠をもち衆生に福德を与えるといわれる。

木造善尼師童子像は、鎌倉中期の作で童顔がよく表現されている。クス材の一本造り。像高八〇センチメートル。毘沙門天の脇侍。

その他、当寺には町指定(彫刻)の木造聖徳太子立像(松材一本造り・像高五八センチメートル)がある。

館内展示品解説 (四)

今回は歴史民俗資料館に展示されている一〇点の古文書の中から、三
点について紹介したいと思います。

近世

①

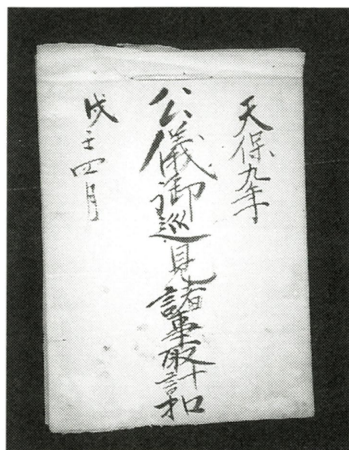
公儀御巡見諸事取計扣控

(大和田まさ氏所蔵)

この史料は一八三八(天保九)年に書かれたものである。

巡見使は江戸幕府によって臨時に任命され、將軍の代替わりごとに全国各地の監察のために派遣された役人で二種類ある。

水戸藩の村々へは、天領・大名領の別なく監察する諸国巡見使がやってきた。巡見使は將軍側近の御使番・御書院番・御小姓組の三人一組で構成され、それぞれ安藤治左衛門・内藤源介・馬場大介が任命され、多数の供を連れて巡見した。水戸藩では西郡奉行海野泉



蔵外元々役加納多一衛門などが中心になり慎重に対応した。

巡見使一行を案内するのに、道筋の通しの案内人一人、村境迄の案内人一人が付いた。行程をみると赤塚村―常葉村―袴塚村―坏渡村―中河内村―西蓮寺村―青柳村―枝川村(泊)で、那珂地方からも多数の人足・馬などが動員された様子を伺い知ることができる。

②

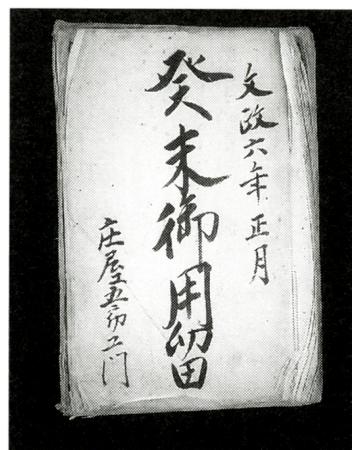
癸未御用留

(大和田まさ氏所蔵)

この史料は一八二三(文政六)年に庄屋五郎衛門によって記録されたものである。

御用留は江戸時代の地方帳簿の一つで御用書留帳などともいわれました。一般的には領主から村々へ下達された触書や年貢取立・夫役・助郷人足等の用件を通達するための廻状などを書留めたものである。

村々は廻状や触書を受けとり、それを御用留に控えてから隣の村



に廻した。

この御用留には、例えば博奕(ばくち)については昨年十二月通知したように禁止しているが、守らない者がいる場合は必ず届け出ること。

また、分付山(水戸藩における私有林)や荒地に来月松苗を植えるので下草を刈っておくこと。

当春、中台村清水原で鹿狩りをし、網場迄追い出すので村内の人々によく伝え間違いのないようにする事などが書かれている。

近代

③

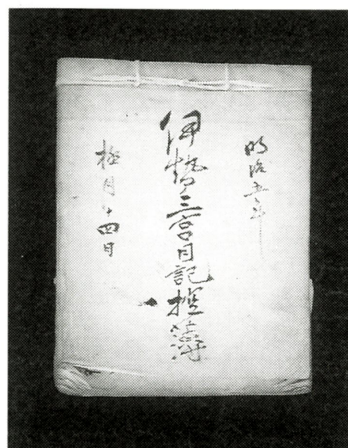
伊勢三宮日記控簿

(住谷毅氏所蔵)

この日記は一八七二(明治五)年に額田村住谷多右衛門によって書かれたものである。

伊勢詣に参加したのは額田村九名・船場村二名・本米崎村一八名合計二九名です。伊勢神宮を参拝することを「参宮」といって、江

戸時代から参宮する者は多く、天保年間二〇〇三〇万人いたという。一行二九名は二月一四日に出発し、村松―湊―銚田―鹿島―香取を経て同月一九日東京に到着。浅草・神田明神に参詣したり、吉原などの見物をした。東海道を西に向い川崎―鎌倉―箱根―藤枝―桑名―津を経て伊勢に正月七日に到着。翌日、内宮・外宮に参拝し、小神楽をあげた。一行はさらに大和路をめぐり、大坂―四国(金毘羅宮)―岡山(姫路城)―京都―大津―中山道―長野(善光寺)―追分―倉賀野―佐野―結城―笠間―石塚―瓜連―門部を経て二月二日額田に午後四時頃帰着した。そして額田宿の泉屋半平宅で旅が目度く終了したので祝杯をあげた。この一行の一日に歩いた距離は一〇里前後である。六八日間の大旅行で、これを克明に記録したのがこの日記である。



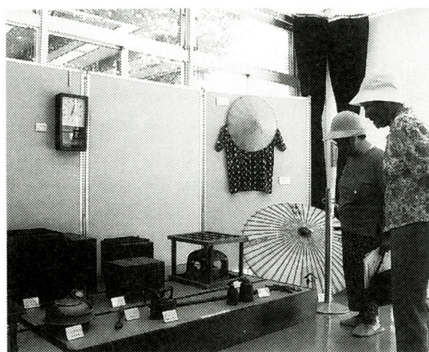
収蔵品展「那珂町のくらし」 第8回特別企画展

「人形展」開催される

那珂町のくらし

昨年の7月22日～9月3日に、那珂町歴史民俗資料館で開催しました。

私たちの生活は、ここ数十年の間にすっかり様変わりしました。冷蔵庫・クーラー・洗濯機・テレビなどの電気製品に囲まれ大変便利な生活を送っています。しかし、これらの道具が一般の家庭で使われるようになったのは昭和30年代に入ってからで、それまでは薪で炊きし、炭火で暖をとる、牛馬が田畑を耕す光景が当たり前のように見られました。



「那珂町のくらし」展示風景

や農具、教科書などを住・農具・戦争・教育文化のコーナーに分け約150点を展示しました。

主な展示品は、ネコゴタツ・糸車・カマド・石油ランプ・馬耕スキ・千歯ゴキ・水田除草機・軍服・軍隊手帳・明治昭和初期の教科書、足踏みオルガン、昭和初期の花嫁島田飾りなどで、来館者からは「とても懐かしう良かった。」「子供と一緒に昔の生活に接することができた。」「今となつて貴重な品を良い状態で展示した、今回同様の企画展を今後も期待します。」等の感想をいただきました。

また、会場に「昔のおもちゃで遊んでみよう!」と題した、ケン玉・ベーゴマ・メンコ等8種類の昔懐かしい玩具を用意し、それらで実際に遊べるコーナーを設けました。

このコーナーは、子供たちだけでなく、幼い頃に実際にそれらで遊んだという50才代前後の来館者にも「懐かしい。」と好評で、偶然居合わせた遊び方を良く知らない子供たちに、ベーゴマの回し方やメンコの打ち方などを教える光景も見られました。

期間中の来館者は、一五〇三名(町内六一九名・町外八八四名)でした。

人形展

「人形展」は、以前より来館者によるアンケート等で開催を望む声が多かった企画展で、町内の各家庭にある歴史や思い出の詰まった人形を紹介しようとして、昨年の10月28日～12月2日に開催しました。

人形の起こりは古代、人間の穢れを祓うために使われた「形代」であったとされています。「形代」は次第に儀式の道具から女兒の手遊び用の人形となり、以降様々な形に発展しました。博多人形などの様に伝統工芸として伝承されたものの、衣装人形や民俗人形の流行を表現したものの、アンティークドールや創作人形などの芸術性の高いものなどが挙げられ、人形は単なる玩具の域を出て文化を伝承する大切な手段の一つとして私たちの生活に溶け込んでいます。

「人形展」では、そういった人形を町内の方々からお借りし、那珂町の人形・日本各地の人形・こけし・クドール・世界の人形・創作人形・キャラクター人形・雛人形のコーナーに分け145点を展示しました。身近なものがテーマの企画展だったためか、子供からお年寄りまで興味深げに人形に見入る姿が見受けられました。



「人形展」展示風景

の頭人形でした。

頭人形は、胴体のない頭部のみの人形で、桐のおがくずを糊で固めて型を取り、彫刻刀で形を整えたものに一体一体面相筆で目や口などを書き入れて仕上げます。大変細かい作業を必要とし、更に一人前になるまでに10年以上かかるため後継者の育成が難しく、残念なことに小林氏の技術は途絶えたままとなっています。

二つと同じ顔の人形がないという小林氏の頭人形に、「町内にこんな優れた技術を持った人形師がいたとは知らなかった。」「表情が細かくて感心した。」等といった賛辞の声が集まりました。

人形展全体の感想として、展示解説の不備や展示数が少ないといった指摘もありましたが、「150体近くの人形に囲まれ一時ですが夢を持ち心が和んだ。」「日本全国の人形と世界各国の人形を一度に見ることができて感激した。」といった感想も

多く寄せられました。中には、町内の方々による創作人形を見て「私も人形作りを始めてみたいとなった。創作意欲が湧いた。」という方もいらっしゃいました。

「人形展」協力者氏名

——五十音順・敬称略——

會澤義雄・石崎福次・磯崎敦子・市毛二美子・伊藤政治・茨城県林業技術センター・大森良子・勝山丈夫・勝山八重子・川又秀雄・木村静枝・小坪大見・小林政之丞・小森友子・斉藤輝子・佐川彰・笹島章子・鈴木麻由美・高橋晋・田所貴美子・津久井昌明・富岡銀次郎・富張安司・友廣美智子・中沢範行・仲田義一・堀富士夫・松山昇・平松光子・細谷次男・細谷峯子・本島輝久・武藤正夫・山川渙・横須賀良子

特別展の開催にあたり、ご協力を賜りました皆様、に厚く御礼申し上げます。

目安箱(アンケート)より

- (1) 展示コーナー人気ベスト3
 - 1位 86票 舟形石棺と映像
「水鳥が語る古代のロマン」
 - 2位 83票 農家のくらし
曲がり屋・長屋門
 - 3位 81票 縄文・奈良・平安時代の石器・土器
- (2) 入館者の感想・意見

● 那珂町に住んでいるが、初めて知ることばかりで参考になった。昔の人々の生活の工夫を実感した。

● 文化財を大切に保管し、今の子供たちにわかるように展示することはとても意義のあることだと感じた。

● 館内の展示が分かり易く良かった。何より昔の玩具で実際に遊ぶことができて思わず夢中になった。

● 那珂町にこれだけの史跡があるとは大変驚いた。施設も素晴らしく館員も親切で感激した。

● 映像や大助祭の山車等とても良かった。学校の勉強の復習にもなる

入館者月別・町内外別調 (4/1~3/31)

月	開館	入館者数			団 体 入 館 者 等
	日数	総数	町内	町外	
4	26	300	185	115	木崎小学校 3 年生
5	26	474	267	207	芳野小学校 3 年生、菅谷小学校3年生、ひたちなか散策クラブ、五台小学校 3 年生
6	26	220	81	139	多古町教育委員会
7	26	330	141	189	国際交流関係者
8	25	1,327	514	813	新町内小中学校教員研修
9	24	291	75	216	茨城町歴史を語る会 (財)常陽芸文センター
10	26	224	109	115	
11	26	1,480	1,036	444	菅谷西小学校 3 年生 横堀小学校 3 年生
12	19	100	38	62	
1	21	63	26	37	
2	24	293	139	154	
3	27	185	83	102	
計	296	5,287	2,694	2,593	

し、新たな発見もあった。

- よくぞこれだけの資料を集めたと感じ心した。音声による説明も分かり易かった。
- 子供でもわかる易しい説明があると良い。大人でも難しい所があった。
- (3) 今後の企画展の希望
 - 「昔と今」と題した衣・食・住に関わる展示
 - 祭の写真展
 - 昔の那珂町の写真展
 - 町内出土土器展(他に土器を触れる展示という意見もあり)

「貴重なご意見、ご感想ありがとうございます。」

平成12年度資料寄贈・寄託者名

- ◎ 寄贈品及び寄託者
 受付順 敬称略
- 動員袋・奉行袋・たばこ入れ・俵編み機・田舟・石鏝(戸崎・松山はつ)
 - 茶壺・井戸滑車・ホイロ用サプロウ(額田北郷・富岡銀二郎)
 - 手鏡・棹秤(菅谷・川又徹夫)
 - 手鏡・牛用天秤・脚絆・水筒・編上靴・他戦争関係資料4点(飯田・大

《特別企画展のお知らせ》

- 平成十三年年度の計画**
- 第9回特別企画展 那珂町の民話展
平成9年度に開催した同名企画展で展示した、那珂町の民話の挿絵を展示。民話の読み聞かせ等も行いました。
 - 会期 7月20日(金)~9月2日(日)
 - 第10回特別企画展
「那珂町の職人展」(仮題)
町内の工芸品等の優れた技術を持つ職人の紹介及びその作品の展示
 - 会期 10月27日(土)~12月1日(土)
 - 詳しくは、那珂町歴史民俗資料館(☎297-0080)までお問い合わせ下さい。

- 森武雄) ● 米びつ・はかり・台秤(瓜連・萩野谷兼男) ● 神楽太鼓張替保険証等古文書25点(中台・石川和泉) ● 爆弾破片(豊嶺・坂本勝) ● 炙り子(門部・仲田義一) ● 丸テ(ブル(菅谷・會澤義雄) ● 棹秤(門部・會澤肇) ● テープレコーダー(南酒出・寺門芳春) ● いづめ子人形(飯田・斎藤輝子) ● 糸繰り機(中台・小坪大見) ● 火鉢2点・茶筒3点(鴻巣・森田惇) ● 防空頭巾・雛人形・オカモチ・かき氷機・べっこう髪飾り・他民俗資料4点(額田北郷・豊島昌明) ● 能面4点(額田北郷・鈴木良照) ● 明治時代教科書39点(額田北郷・渡辺明) ● 庚申講資料(東木倉・後藤正明) ● 石臼(南酒出・袴塚武) ● トウミ(後台・峯島寿)
- ◎ 寄託品及び寄託者
 離人形(菅谷・横須賀良子)
 寄贈・寄託者の皆様に厚く御礼申し上げます。

【編集後記】

本日「水鳥六号」をお届けいたします。現在、多目的ホールにて『昔のおもちやであそんでみよう』コーナーを設けています。お子さんだけでなくベビーゴマ・メンコが懐かしい世代の方にも好評です。

今年度も町民の方々より、多くの資料の寄贈・寄託をいただきました。その中から能面と離人形を常設展示室へ展示しました。(離人形は2月1日~3月4日まで展示)能面は町内在住の方の作品で来館者から大変好評をいただいております。ぜひお出かけの際ご覧下さい。

資料館ホームページを開設しました。
<http://www.net-ibaraki.ne.jp/nakatown/siryokan-homepage/>
 メールでの皆様のご感想をお受けしております。

町民の皆様のご来館を心よりお待ちしております。[事務局]

案内図

